

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ○ 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校 ○ 「大阪」の将来を担う人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校 ○ 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校 【生徒にはぐくみたい力】 ○ 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性 → 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等） 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等） 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解・多文化共生 等） 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）
--

2 中期的目標

【基調】 進学指導特色校（グローバルリーダーズ ハイスクール）の基礎の確立 → 深化する高津高校・高津生一つ（普通科と文理学科との協働と切磋琢磨）／力のある教員 1 確かな学力をふまえつつ、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み （1）新学習指導要領をふまえた特色ある教育課程の編成 ア 1 年次での国語、数学、英語の充実 イ 国語・数学・英語の少人数展開授業 ウ 2 学期制のもと、2 年次からの多様な選択を可能にする半期認定制度の実施 エ 文理学科 2 年次の課題探究の実施 （2） 魅力ある授業の実施 （3） 講習、補講の充実、自学自習の促進 （4） スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の成果の校内普及 2 豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立 （1） 人権尊重と規律・規範意識の向上生徒の社会体験活動の促進 （2） 生徒の自主的活動の活性化（生徒自治会活動、学校行事、部活動） （3） 生徒一人ひとりの健康チェックと情報共有化 （4） 教育相談体制の充実 3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立 （1） 教科指導力の向上 授業評価システムの確立（生徒による授業評価、教員間の授業交流） （2） 研修の充実 生徒指導、人権、心の発達、保護者連携、地域に開かれた学校づくり 等 （3） ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成 （4） 学校の組織的運営 （5） ICT を活用した教科指導、校務の効率化や情報の共有化 （6） 地域に開かれた学校づくりの推進
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 2 5 年 1 2 月実施分〕	学校協議会からの意見
○「スクールアイデンティティが明瞭である」「スクールアイデンティティや教育方針をふまえた、高津らしい教育活動が行われている」とう 2 点が高い評価を得ている。クラス、学校行事、部活動などにおいて、多くの生徒が楽しく取り組んでいると回答してくれている。また、多くの生徒・保護者から「入学して（させて）よかった」と評価を得ている。引き続き、伝統や校風を継承しながら、進学指導特色校の特長を出すべくさまざまな教育活動を実施していく。 ○課題として、生徒については「授業をもっとわかりやすく、そして楽しく」という指摘があり、授業改善などさらなる教員の授業力向上に取り組んでいく。保護者については学校との情報交換がよりの確・円滑にすすむよう、情報発信を工夫改善していく。 ○自由記述の中で学習指導、学校行事、部活動、生活指導などについて指摘いただいた点については、一つでも多く改善を図っていく。	第 1 回（平成 2 5 年 7 月 1 9 日） ○学区撤廃について、広報活動などにより、校風のほか、スクールイメージを明確にすることが大切である。 ○課題探究について、生徒間での議論を活性化させることが重要である。 ○ポスターセッションについて、各グループから事前にサマリーを提出させるとともに、メンバーが交代制で質疑を担当させるとよい。 第 2 回（平成 2 5 年 1 2 月 1 3 日） ○授業力の向上について、各教員が、生徒による授業評価結果を受けとめ、自分の授業をどのようにとらえ改善するかがポイントである。 ○英語運用能力の向上について、核となる国語力の伸長を図ることが大切である。また、古典では、背景を理解させるなどにより、味わいを感じ取らせてやりたい。 第 3 回（平成 2 6 年 3 月 2 8 日） ○生徒の授業への積極的参加について、公開授業の際、参加教員が生徒の取り組み姿勢を観察し、それを担当教員に伝えることにより、指導方法の工夫など授業改善につながる。 ○生徒の意欲喚起について、「自身のヤル気度」などアンケート調査を複数回実施することはよい。また、行事や受験のあとで、生徒自身の工夫などをまとめ、後輩に伝えることもよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力をふまえて、高い志を高く、進路実現をめざす取組み	【新学習指導要領をふまえた特色ある教育課程の実施】 ア 文理学科 2 年次の課題探究講座の実施 イ 魅力ある授業等の実施 ウ 体験型進路学習の実施 エ 教育課程の点検	ア・創造探究委員会の企画のもと、各教科で担当者を決め、文理学科 2 年次の課題探究を実施する。その成果を学校全体に普及させる。 イ・教科・科目の特性などを見きわめながら、プロジェクトなどの I C T の活用を図る。 ・国のスーパーサイエンスハイスクール事業を活用しながら、高大連携事業等をすすめる。 ・1、2 年生全員対象にネイティブによる英語少人数集中講座を年間 2 回実施する。3 年生希望者に年間 1 回実施する。 ・1、2 年生対象に、実用英語技能検定の受検を促進する。 ・補習や土曜講習等を実施する。 ウ・キャリア教育をふまえ、進路指導部と 1、2 年学年団とが連携し、総合的な学習の時間を活用し、7 月の進路週間に、グループ単位の体験型進路学習を実施する。 1 年全生徒 職業人からの聴き取り 2 年全生徒 大学研究者からの聴き取り エ・教育課程を点検し、必要に応じて見直しを行う。	ア・課題探究内容を評価する。 ・文理学科の 2 年生の満足度を高める（アンケート／満足度 100%）。 イ・I C T 活用授業の取り組み数を増やす。 ・高大連携事業への参加者数を増やす。 ・実用英語技能検定試験の受検者数を増やす。 ・各学年で講習等への参加生徒数の増加をめざす。 ウ・各グループのまとめやプレゼンテーション内容を評価する。 ・各学年の生徒の満足度を高める（アンケート／満足度 100%）。 エ・平成 2 6 年度入学生を対象とした教育課程の点検と見直しを行う。	ア・延べ参加生徒数（文理学科・普通科）は 1,140 名となり、内容も充実したものとなった。アンケートによる満足度もほぼ 100%であり、高い評価を得た。（○） イ・国語（古典）、地歴（世界史）、理科（物理、化学、生物、地学）、保健、英語、家庭において ICT 授業を実施した。（◎） ・外部連携事業に 6 5 2 名、高大連携事業に 2 9 2 名が参加した。（○） ・実用英語技能検定試験受検について、1 年生には全員受検、2 年生には希望者 4 0 名が受検した。（◎） ・土曜講習等への参加者数が増加した。（◎） ウ・1 年生のプレゼンテーション、2 年生のポスターセッションとも、企業人および学識経験者による外部評価を受けた。高い評価を受けた。（○） ・満足度 1 0 0 %には達しなかったが、1 年生で 9 9 %の生徒が、2 年生で 8 9 %が「よかった」と回答しており、高い評価を得た。（◎） エ・平成 2 6 年度入学生を対象とした教育課程を作成した。（○）

府立高津高等学校

豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立	【人権尊重と規範意識の向上】	ア・人権教育推進委員会と各学年とが連携し、学年進行に応じた人権尊重精神を涵養する。 1年 学習合宿（コミュニケーション力） 近畿統一応募用紙 講演会、リバティおおさか見学 2年 車いす体験、講演会 3年 講演会	ア・各学年の生徒の満足度を高める（アンケート／満足度 100%）。	ア・各学年とも行事や講演会への積極的な参加が見られ、生徒の意識が向上した。満足度 100% には達しなかったが、1 年生で 99% の生徒が、2 年生で 90% の生徒が「よかった」と回答しており、高い評価を得た。入学時アンケート調査、学習合宿でのコミュニケーション力育成、近畿統一用紙やリバティおおさか訪問など、入学時から集中的な取り組みを行う 1 年生において土台づくりができた。（◎）
	ア 人権尊重精神の育成			
	イ 社会体験・社会貢献活動の促進	・国のスーパーサイエンスハイスクール事業を活用しながら、海外の高校生たちとの交流を促進する。		
	ウ 基本的生活習慣の定着	イ・人権教育推進委員会、進学指導特色校検討委員会企画、生活指導部が連携し、社会体験・社会貢献活動を促進する。 1 年生希望者対象「ボランティア講座」 東大阪支援学校、視覚支援学校との交流 各クラブ部の社会貢献活動	イ・ボランティア講座受講者数 40 名をめざす。 ・全クラブが社会貢献活動を行うことをめざす。	イ・土曜日等に 4 回実施し（本の読み聞かせも行う）、他校生に呼びかけた。部活動等の影響か、全 4 回で延べ 105 名の参加であった。参加者には大変好評であり、次年度も工夫して実施したい。（△） ・東大阪支援学校、視覚支援学校、障がい者施設との交流のほか、「高津キャラバン隊」として、各クラブが自主的にボランティア活動を探し社会貢献活動に取り組み、ボランティア活動や社会への気付きとなった。（◎）
	エ 教育相談体制の充実	ウ・生活指導部のリーダーシップのもと、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。 エ・教育相談委員会のリーダーシップのもと、支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を確保する。また、保護者へのアドバイスを行う。	ウ・挨拶の励行をめざす。 ・遅刻者数の減少をめざす（年間延べ人数 200 名）。 エ・スクールカウンセラーによる助言等による機会を増やす。	ウ・挨拶の励行について外部からの来校者からも評価を得ている。 ・登校時の遅刻者数は約 2000 名であり、昨年度とほぼ同数であり、さらなる減少に取り組む。（○） エ・生徒や保護者を対象としたスクールカウンセラーによる助言のほか、教職員研修等での講師を務めていただいた。（◎）

府立高津高等学校

教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	【教師力の育成】	ア・教員間の授業交流を実施し、その結果を教員にフィードバックする。また研究授業を行う	ア・学習方法など授業に関する生徒の満足度を高める（アンケート実施／満足度80％以上）。	ア・従前の方法とは異なるアンケート調査を2回実施した。質問項目9問で4点満点のうち、1回目の全学年平均3.11、2回目の全学年平均3.12で、ほぼ80％であった。より一層評価が高まるように取り組む。(○)
	イ 教科指導力の向上	イ・生徒による授業評価（年2回）や授業公開等を実施し、その結果を教員にフィードバックする。	イウ・教員の満足度を高める（アンケート／満足度100％）。	イウ・浪速地区フィールドワーク（他校の教員も参加）、専門医やスクールカウンセラー等による「起立性調節障がい」「子どものストレスといじめ問題」について研修を行った。また、新転任者対象に猪飼野フィールドワークを実施した。教職員には好評であった。(◎)
	イ 教職員研修の充実	ウ・教科指導、校務分掌のほか、さまざまな教育活動や開かれた学校づくりへの参加・参画を促進する。	エ・各分掌等での組織的運営を図る。	エ・各組織において個人負担になっているところも見受けられるので、組織的運営が行われるよう努める。
	ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成（講師を含む）	エ・学校の組織的運営を図る。		・常設のいじめ対策委員会を設置した。